

令和4年度大洋学園事業報告

《施設の概要》

・名称及び所在地

「大洋学園」 〒022-0006 岩手県大船渡市立根町字下欠 125 番地 15

Tel 0192(26)2714 Fax 0192(26)2771 Email taiyogakuen@taiyokai.or.jp

・施設の種別 児童養護施設

・設置主体 社会福祉法人大洋会

・概要 定員：41名

[本体施設：大洋学園（35名）]

施設規模：敷地面積 4,940 m² 床面積 1,288.16 m²（鉄筋コンクリート造 2階建て）

施設内容：事務室 湯沸室 印刷室 職員室 宿直室 静養室 医務室 男子・女子・職員・調理員便所 調理室 食品倉庫 調理員休憩室 ホーム5 図書室 ユニットケア4 自活訓練室 居室3 リネン室1 男女浴室 機械室 多目的ホール 心理棟 屋外倉庫

[地域小規模児童養護施設：若葉ホーム（6名：本体施設定員外）]

所在地：岩手県大船渡市猪川町字轆轤石 69 番地 13 号

施設規模：木造 2階建て 床面積 99.74 m²

[小規模グループケア：さくらホーム（6名：本体施設定員を含む）]

所在地：岩手県大船渡市猪川町長谷堂 61 番地 28

施設規模：木造 2階建て 床面積 167.92 m²

[小規模グループケア：双葉ホーム（6名：本体施設定員を含む）]

所在地：岩手県大船渡市猪川町字下権現堂 1 番地 14

施設規模：木造二階建て 床面積 148.4 m²

・目的

乳児を除いて保護者のない児童、虐待されている児童、その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせてその自立を支援することを目的とする。

・沿革

昭和 30 年 3 月 29 日 大洋学園開園（大船渡町字明神前 33）

昭和 42 年 3 月 28 日 大洋学園園舎移転（猪川町字久名畑 120 番地 3）

昭和 51 年 4 月 29 日 宮内庁より御下賜金拝受

昭和 60 年 5 月 12 日 大洋会・大洋学園 30 周年記念式典

平成 4 年 3 月 22 日 大洋学園現園舎へ移転

平成 15 年 10 月 1 日 地域小規模児童養護施設「若葉ホーム」事業開始（前田 16 番地 15 号）

平成 16 年 11 月 1 日 小規模グループケア「さくらホーム」事業開始（藤沢口 50）

平成 20 年 4 月 15 日 園舎拡張（つばさホーム・心理棟）・改修（ひまわり Gホール）工事竣工

平成 23 年 1 月 20 日 園舎一部ユニットケア化改修工事竣工

平成 23 年 2 月 11 日 本園一部ユニットケア開始（希望・飛翔ホーム）

平成 23 年 3 月 11 日（14:46） 東日本大震災発生

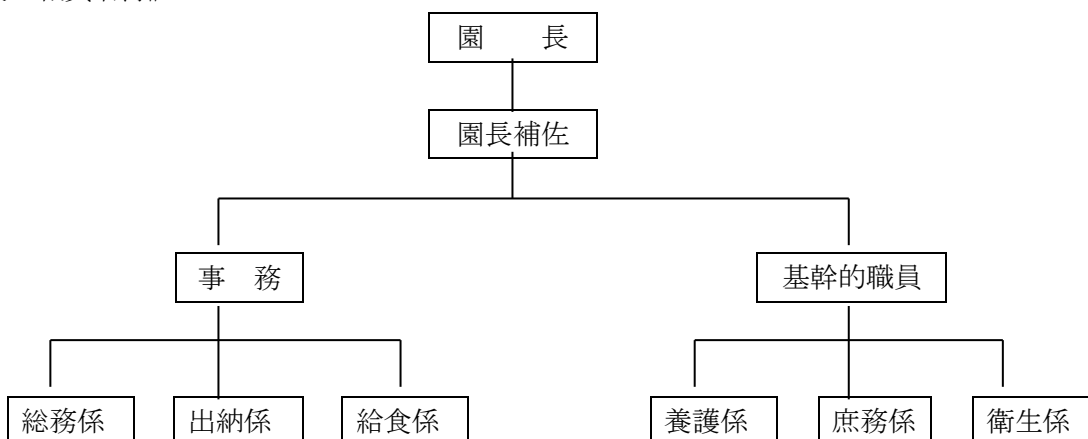
平成 23 年 9 月 3 日 小規模グループケア「さくらホーム」新家屋を購入し、猪川町字藤沢口 50 から猪川町字轆轤石 69 番地 13 号に移転

平成 25 年 5 月 18 日 「光輝ホーム」「ひまわりホーム」ユニット化改修工事竣工、全面ユニットケアに移行

平成 30 年 4 月 1 日 猪川町字長谷堂 61 番地 28 に新家屋を購入修繕し、分園型小規模グループケア「さくらホーム」として利用開始。猪川町字轆轤石 69 番地 13 号の旧「さくらホーム」は地域小規模児童養護施設「若葉ホーム」に種別変更。

令和 2 年 8 月 1 日 猪川町字下権現堂 1 番地 14 の一軒家を借用し、2 か所目の分園型小規模グループケア「双葉ホーム」として新規利用開始。

《組織図及び職員名簿》



児童養護施設大洋学園本体					
園長	中村 賢司	補 佐	熊谷 努	個別対応職員	今野 里美
家庭支援専門相談員	千葉はるか	家庭支援専門相談員	大和田雄介	心理療法士	船野 克好
栄養士兼調理員	鈴木 茜	里親支援専門相談員	志田真理子	事務員	千葉 智江
特別指導員	鈴木 優作	心理療法士兼児童指導員	志賀野幸司	嘱託医	大津 定子
希望ホーム		飛翔ホーム		地域分園型 GC 双葉ホーム	
保育士(チーフ)	小島 隆規	児童指導員(チーフ)	新沼 弘樹	保育士(チーフ)	佐々木 薫
保育士	佐々木 歩	保育士	栗村 勇斗	児童指導員	鈴木 勇
保育士	藤倉 聖子	保育士	笠原 大広	児童指導員	小野寺 涼
調理員	新沼利江子	児童指導員	松田 浩晃	宿直専門員	道合 恵子
ひまわりホーム		光輝ホーム		地域分園型 GC 双葉ホーム	
保育士(チーフ)	高橋久仁江	児童指導員(チーフ)	及川由香里	保育士(チーフ)	金野 聖
保育士	伊藤 直樹	保育士	中野由美子	児童指導員	吉田 秀毅
児童指導員兼調理員	尾形 豊	保育士	佃 実佳	児童指導員	只野 大介
児童指導員	千代 若菜	保育士兼調理員	和田 亜美	保育士	白木澤優香
		宿直専門員	葛西 修子	宿直専門員	武田喜久子
地域小規模児童養護施設 若葉ホーム					
児童指導員(チーフ)	嘉藤 護	児童指導員	佐々木裕也	児童指導員	福原 成美
宿直専門員	川口美穂子				

光輝ホームチーフの佐々木由香里は、産休・育休より8月に復職

児童指導員 松田 浩晃 8月入職 児童指導員 千代 若菜 11月入職

児童指導員 吉田 秀毅・松田 浩晃 宿直専門員 葛西 修子 3月退職

1. 大洋学園が指定を受けている付加事業

子育て支援短期利用事業 (平成5年度より実施)	ショートステイ : 令和4年度 7件 17名 (延日数 32日) トワイライトステイ: 令和4年度 2件 2名 (延日数 4日)
----------------------------	---

2. 視察・ボランティア・招待等

月	慰問・視察・奉仕	月	慰問・視察・奉仕
5	岩手県議会議員視察	1	長谷寺鏡餅贈呈
11	更生保護婦人会奉仕	2	高城写真卒業記念写真撮影ボランティア
12	大船渡市地域婦人団体連絡協議会慰問		おはなしころしんボランティア
	コボックス慰問	3	神田ロータリークラブ慰問
	大船渡ライオンズクラブ慰問		日に青い寄付
	日に青い寄付		おはなしころしんボランティア
	神田ロータリー慰問		

3. 主な行事報告

月	日	行事名	日	行事名
4	1	ホーム発表	2	小学生との話し合い
	3	中・高生との話し合い リーダー会議		
5	5	こども縁日	26	中学校との学洋懇談会
6	10	小学校との学洋懇談会		
7	10	流しそうめん昼食会		
8	1	夏行事実施期間～11日	7	盛七夕～8日
12	10	全体旅行①～11日	17	全体旅行②～18日
1	10	全体旅行③～11日	12	全体旅行④～13日
2	18	テーブルマナー 園内球技大会 全体写真撮影		
3	19	大洋学園送別会 卒園生との会食会	30	送る会

4. 主な研修会・諸会議等

(全: 全国児童養護施設協議会 東: 東北ブロック児童養護施設協議会 岩: 岩手県児童養護施設協議会 児: 児童福祉施設協議会 県: 岩手県 社: 岩手県社会福祉協議会 児相: 児童相談所 明: 明治安田こころの健康財団 虹: 子どもの虹情報研修センター 事: 岩手県社会福祉事業団)

月	日	研修・諸会議等	参加者	月	日	研修・諸会議等	参加者
---	---	---------	-----	---	---	---------	-----

5	9	(岩)養護研究部主任会議 (Zoom)	補・里	11	1	(岩)給食主任会議 (Zoom)	茜
	10	(岩)事務福利厚生部主任会議 (Zoom)	智		10	基幹的職員研修	聖
	10	(岩)給食研究部主任会議 (Zoom)	茜		14	(岩)養護研究部主任会議 (Zoom)	補・里
	12	(児)第1回幹事会 (盛岡)	園		25	FSW 定例会 (Zoom)	雄・は
	19	(岩)里親支援勉強会 (Zoom)	志	12	5	県 BBS 会研修会 (Zoom)	勇
	20	第1回 FSW 定例会 (Zoom)	雄・は		6	岩養協幹事会	園・補
	20	(児)第1回専門委員会	小		8	キャリアパス研修～9日	雄
	21	(岩)幹事会 (Zoom)	園・補	2	5	未委託里親研修	志
7	4	(岩)養護研究部主任会議 (Zoom)	補・里		9	未委託里親研修 (Zoom)	志
	5	社会福祉従事者新任職員研修～6日	幸		11	FSW 研修会	雄
	12	児童協 (Zoom)	小		14	令和4年度岩養協全体研修会	8名
8	4	里親委託等推進委員会 (Zoom)	志	2	24	FSW 定例会	雄
9	8	キャリアパス研修～9日 (Zoom)	志	3	6	岩養協幹事会	園・補
	9	家庭養育支援地域ネットワークセミナー (Zoom)	志		6	中堅職員研修～15日 (Zoom)	6名
	16	(岩)養護研究部主任会議 (Zoom)	補・里		9	児童協幹事会	園
10	17	(岩)養護研究部主任会議 (Zoom)	補・里				
	30	岩手県里親大会	勇・志				

〔園内諸会議・委員会〕

@職員連絡会議：情報共有・周知のため毎日 13:30 より開催。状況に応じケース会議に移行

@運営委員会：職員運営委員による運営の課題や問題を検討後、職員会議で決定。

@給食委員会：献立や衛生管理について検討後、職員会議で決定。

@チーフ会議：ユニットチーフで構成し月 1 回以上の開催。養育支援に関する情報の共有と協議。

@自立支援計画策定会議：子ども一人ひとりの自立支援計画を年 2 回検討。

@ヒヤリハット委員会：報告書や日常の中で気付いた事項の分析・改善。

@ケースカンファレンス：重篤ケースを対象に開催。

@五葉新聞編集委員会：学園新聞の編集・作成。

@園内研修：研修委員会を設置し、外部・内部講師プログラムや伝達研修を全職員対象に実施。

5. 実習生受け入れ状況 (令和4年度)

期	間	人数	依 頼	機 関	備 考
6/20	～6./29	2名	東北福祉大学		保育
7/28	～8/9	3名	修紅短期大学		保育
8/20	～8/29	2名	修紅短期大学		保育
9/5	～9/14	1名	盛岡大学短期大学部		保育
11/7	～11/16	1名	盛岡大学短期大学部		保育
12/8	～12/17	1名	盛岡大学短期大学部		保育
1/16	～1/25	1名	専修大学北上福祉教育専門学校		保育
3/2	～3/11	3名	専修大学北上福祉教育専門学校		保育

6. 月間移動状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
月首	30	30	30	34	32	34	34	34	35	35	36	36	400
初日入所				3		1					1		5
初日退園													
初日在籍	30	30	30	34	32	34	34	34	35	35	36	36	400
中途入園			2		1			1				1	4
退園			1	2									3
月末	30	30	30	32	33	34	34	35	35	35	36	37	401
一時保護委託				1	1							1	3

7. 期末在園児の年齢・男女別状況

令和5年3月1日現在

	1・2 歳児	未就 学児	小学生							中学生				高校生他					合計	
			1	2	3	4	5	6	小計	1	2	3	小計	1	2	3	4	他		小計
男		1		2	1	2	2	3	10	3	2	1	6	1	3				4	21
女		1	1	1	1		4		7	1		1	2	3		1		1	5	15
計		2	1	3	2	2	6	3	17	4	2	2	8	4	1	1		1	9	36

8. 期末在園児の出身地別状況

令和5年3月1日現在

岩手県福祉総合相談センター		岩手県宮古児童相談所		岩手県一関児童相談所	
盛岡市	5	宮古市	1	一関市	2
久慈市	1	釜石市	4	大船渡市	5
北上市	2	山田町	2	陸前高田市	2
遠野市	2	岩泉町	1	奥州市	8
合計	10	合計	8	合計	17

9. 本年度3月退園生の進路状況

進路	在園高校進学	上級学校進学	高校卒就職	その他
男子	1	0	0	0
女子	1	1	0	0
計	2	1	0	0

10. 生活の目安

☆ひまわりホーム（夕方3時以降は児童と同じ）

時間	活動内容	時間	活動内容
6:20	起床・掃除・食事準備・朝食・片付け	12:00	昼食準備・昼食・片付け
8:00	4~5歳児登園準備	14:00	4~5歳児帰園:幼稚園バス迎え
9:00	4~5歳児登園:幼稚園バスが迎え	15:00	おやつ・工作等
10:00	おやつ		

☆学童ホーム

平 日		休 日	
6:20~	起床・朝食・片付け	8:00	朝食・片付け
7:30	登校	12:00	昼食・片付け
18:00~	夕食・片付け・入浴	17:00~	夕食・片付け・入浴
21:00	就寝（小学生）	21:00	就寝（小学生）
22:00	就寝（中学・高校生）	22:00	就寝（中学・高校生）

1 1. 各ホーム活動

（1）ひまわりホーム（担当：高橋 伊藤 尾形 千代）

今年度のひまわりホームは、一時保護児童が入所と同時に急遽8月から始まり、双葉ホーム、光輝ホームにいた姉弟の幼児達が一緒に生活する事となりました。

ホーム目標は、「たくさん遊び、元気に楽しく生活する」としました。当初、一人遊びが多くみられましたが、成長し仲良く3人で遊ぶようになりました。縄跳びや自転車などが出来るようになり、文字もそれぞれ興味を持つようになりました。経験が少なかった児童達ですが、たくさんの学園の行事や幼稚園での生活を通して成長し、笑顔でのびのびと過ごすことができました。

（2）希望ホーム（担当：小島・藤倉・佐々木・新沼・尾形）

今年の希望ホームは、高校3年女児、高校1年女児、中学1年女児、小学5年女児2名、小学3年女児、計6名でスタートした。5月、高校1年女児が治療等のために長期入院したため、一年間ほとんど5名で過ごした。高校1年女児は無事3月19日退院。職員については、8月にひまわりホームが開設したため、尾形（指）がひまわりホームに異動した。

小中学生のなかでは、たまにトラブルになることがあったが、基本的には仲良く過ごした。中学1年女児が高校3年女児の録画番組を何度も意図的に削除したり、物を盗むことがあり、高校3年女児からはホームを変えてほしい等の要求を訴えることもあった。だが、高校3年女児は長期休みの時等に下の子に宿題を教えたり等面倒をみってくれることもあった。

コロナの影響もあり、外出でのホーム行事は1回しか実施出来なかったが、高校1年女児が退院し、みんな揃って久しぶりの遠出を楽しむことが出来た。

（3）光輝ホーム（担当：今野、及川、中野、佃、和田、葛西）

小学生2名、中学生1名、高校生2名計5名でのスタートをしました。新しい環境に慣れずに登校を渋る子は学校と協力しながら支援し、高校合格を目指して勉強に励む子には通塾を通し学習支援を行いました。12月にはコロナに罹患したホーム児童がおり、ホーム全体で濃厚接触者として隔離生活を送りました。小学生から高校生までの幅広い年齢層のホームだった為、目安の生活時間の中で入浴や食事、テレビの時間を子どもたち同士で配慮しながら生活する様子も見受けられました。コロナ禍でしたが、感染対策を行い花見や外出、子どもたちの要望に出来るだけ添えるような行事を行いました。3月には小学生1名が家庭引き取り、中学生が無事に高校合格することが出来ました。

（4）飛翔ホーム（担当：新沼、栗村、笠原、松田）

今年の飛翔ホームは、高校2年男児3名と中学1年男児1名の4名でのスタートでした。そのうち高校2年男児1名が家庭引き取りとなりました。6月に中学1年男児、3年男児の2名が加わり、11月に高校1年男児1名、2月に小学5年男児1名が加わり計6名となりました。職員のホーム移動等もあり入れ替わりが多い1年となりましたが、コロナ禍で実施できていなかった班行事や全体旅行を実施できてとてもよかったです。1年間入院している児童もおりましたが、無事に子どもたちは卒業や進級をする

ことができ良かったです。

(5) 双葉ホーム (担当：佐々木薫、鈴木勇、小野寺涼、道合恵子、(高橋久仁江))

今年度の双葉ホームは、入退所や一時保護受け入れ、ひまわりホームの開設に伴い、児童の出入りがとても多く、職員体制も変更するなど、一年を通して動きが多い状況となりました。しかしその中でも、子ども達はのびのびと生活し、それぞれのペースで成長することができました。(4月1日児童5名スタート。新規入所4名、家庭引取3名、一時保護委託受け入れ1名。)

ホームの重点目標を『お互いを思いやり、楽しいホームにする』とし、一年間、生活しました。言葉が足りず誤解が生じたり、感情的になり言葉や態度が荒くなってしまうこともありましたが、基本的にはホームは仲が良く、一緒に遊んだり、困った時には声を掛けあう姿もみられました。楽しくなりすぎて騒がしくなってしまうことも多く、生活の中で、相手や周りの人への配慮について伝えてきましたが、課題を投げかけると、自然と子ども同士で気付き、話し合い、解決しようというすることもありました。掃除やゴミ捨て、調理や食器の片付け等、言われなくても進んでお手伝いしてくれる子が多かったです。

(6) 若葉ホーム (担当：嘉藤 佐々木 福原 川口)

今年度の若葉ホームは高校生1名、中学生1名、小学生3名の計5名でスタートしました。今年度を振り返ると、色々なことがあった1年でした。子どもたちから日々の生活で不満が出た時にはその都度、ホーム会議等で話し合いをし、より良い生活が出来るようにした1年でした。どの子どもも自分の目標達成に向けて頑張った年でした。子どもたちも何か行事の際にはまとまってくれ、それぞれ協力してくれた1年でした。

(7) さくらホーム (担当：金野聖・吉田秀毅・只野大介・白木澤優香・武田喜久子)

今年のさくらホームは、小学生2名、中学生2名、高校生1名の5名でスタートしました。7月小学生女児が途中入所となり、計6名で過ごしました。コロナは継続で制限がありましたが、ホームでの行事、学園全体の行事等も行うことができ、徐々にコロナ以前の生活に戻っているように感じる1年でした。子ども達からもコロナに関する意見や要望はでており、コロナ対策を徹底して行っただけで、行動し楽しむことが出来たように感じます。

1.2. 家庭支援総括 ※対象児童 36名 (23世帯)

対象児童・新規入所家庭を中心に家庭支援にあたってきました。年度当初は28名(20世帯)を対象にしましたが、途中入所6名(4世帯)も含めた対応になりました。主に電話連絡や家庭訪問、来園時の対応にあたり、子ども一人ひとりの自立支援を家庭と協働して行う事を目的に行ってきました。園内においては、担当、心理、個別と連携を図り、情報共有と支援の検討を重ねて実施につなげてきました。各関係機関との連携については、児相を中心に、学校、医療、市町村などと連絡を密に行い、役割分担を行いながら支援の方向性にズレが生じないよう意思統一を行いながら対応してきました。今年度もコロナ感染状況を見ながら感染対策を講じ、可能な範囲での家族交流を実施してきました。今年度は5名4世帯の引き取りを目指し、2世帯は年度途中で、2世帯は今年度末での引き取り予定となっています。一時保護では長期化しているケースもありますが、必要に応じて対応してきました。また、ショートステイも0歳児の受け入れや里子の受け入れも行いました。児相や市町村と連携しながら対応してきました。また、気仙域の要保護児童対策協議会へ出席し、地域の要保護家庭の把握に努めてきました。アフターケアについては、退園時の担当と協働して取り組んできました。来年度のアフターケア計画の立案を行い、実施につなげていきます。

1.3. 個別対応状況

(1) 対象児童

今年度の対象児童数は、前期8名、後期9名でした。

(2) 実施方法

それぞれの目標に合わせて、定期的に個別の時間をもち対応しました。また、ホームカバーの際の生活援助も活用し子どもとの面談を持ちました。今年はホーム担当になったため面談の回数が例年より少なくなりました。昨年に引き続き2つの絵画コンクール出品の声かけをし、自己表現の機会を作りました。子ども手帳の取り組みは今年も小学生中心に継続して取り組まれており、ホーム担当職員に声かけチェック等の協力をいただきながら、定着している子がいるのが良かったです。

今年度も個別の対象児以外にも希望する子どもたちと、今やりたいこと・将来の夢を話し合う機会をつくることができました。

(3) 定期的情報交換の機会

今年度は心理職員がケースカンファレンスを中心になって進めてくれており、園内でよりよい支援を行うために話し合う機会となりました。参加できるカンファレンスやケース会議には参加し、情報共有に努めました。

(4) その他

子ども手帳、担当不在時のホームサポートも利用して、対象児童以外にもできるだけ多くの子どもとかかわるように心がけ対応しました。また、今年は学習ボランティアの補助として小学生のホームに出向き、学習援助も行いました。

14. 心理療法状況

今年度の心理療法の対象児童は14名（男児7名、女児7名）でした。児童ひとりひとりに合わせて面接の枠組みを考慮し、言語面接、プレイセラピー、心理教育を行いました。背景にトラウマのある困難ケースについては、医療機関と連携をしてトラウマ治療を実施しています。心理や医療による専門的支援が必要な困難ケース以外にもトラウマの影響を受けているケースは多いため、いわゆるトラウマインフォームドケアの視点もとづいた支援の在り方について、職員全体に丁寧に周知していきます。

子どもの能力や状態像を把握したり、有効な支援方法を検討したりするために心理検査を7名に実施しました。対象児童本人や担当職員以外にも外部の関係者に情報提供を行い、特に家庭引き取りを控えたケースについては、実親に対して今後の養育におけるヒントや助言と併せながら結果を報告しました。

入所カンファレンスは計6回、8名の児童について実施しました。コロナ禍ということもあり、参加する職員の人数を限定しましたが、様々な観点から積極的に意見が出されました。対象児童を正しく理解することだけでなく、担当職員を元気づけることのできる場となっています。年度後半にかけて複数の入所児童があったことから、入所カンファレンスの開催が立て続けました。参加する職員の負担にならないよう、入所児童があった場合には速やかに、かつ計画的に開催していきます。拡大カンファレンスについては実施することができなかつたため、各ホームの担当職員から困り感を救い上げられるようアンテナを張り、より良い支援方法が検討できるように仕組みづくりをしていきます。

児童が自分の生い立ちを振り返り、自分自身の人生として歩めるようにしていくためにライフストーリーワークを4名に対して行いました。FSWや担当職員との協働のもとで親面接を実施して伝達内容を確認したり、それぞれの年齢や特性に合わせた工夫を取り入れたりしながら実施しました。今年度は準備や実施にかけられる時間の都合上、児童への伝達内容が真実告知に偏りがちであったため、本来の趣旨に則り、過去・現在・未来の時間軸を児童の目線で迎えることができるよう実施内容を検討し、心理士も研鑽を積む必要があります。

今年度からの新しい取り組みとして、心理士による里親巡回支援活動を開始しました。心理療法士が里親支援専門相談員と共に宮古地域・釜石大槌地域・気仙地域の里親サロン、研修会、制度説明会等へ参加しています。活動開始の初年度ということもあり、里親や関係者（地域里親会、県里親会、児相、他施設等）との関係作りを主に行いました。今後は里親との関わりを徐々に増やししながら、里親が養育する上で抱えている困りごとについて相談に応じていくことを見込んでいます。

15. 里親支援

今年の大洋学園里親支援は気仙支部の15組の里親家庭（内委託中里親3組）と釜石地区の震災による親族里親1組を対象に活動してきました。

今年もコロナ禍での支援ということで活動が十分ではありませんでしたが、訪問の実態としては児童相談所担当者との同行訪問、単独訪問が主となりました。電話による相談や訪問の様子については随時児童相談所へ報告し情報の共有に努めました。また、医療的ケアの必要な里子を養育する里親家庭への支援にフォスタリング機関「ぜんゆう」が加わり支援の幅も広がりました。

里親に関する研修や施設実習、里親サロンや普及啓発活動においても可能な限りスタッフとして参加、協力することが出来ました。

毎月の里専web勉強会では昨年完成した里親向け「めんこの一と」に続き、今年は里子向け「ぼっけの一と」の制作に取り組み、完成させることが出来ました。

その他、二市一町の要対協や子ども支援会議などにも出席し関係機関との連携に努めました。一関児童相談所、宮古児童相談所管内において盛んに普及啓発活動を行ってきた1年でしたが、その中で里親に興味をもたれた方や新規の里親が増えるなど少しずつその手ごたえも感じているところです。

今年度は震災親族の里子がみな地元を離れ、大学生活が始まったことでほぼ里親さん達は制度から離れましたが、里親会にそのまま残ってくださった里親さんもいました。これまでの関わりをなくさずに引き続き子ども達の様子を確認していきたいと思っています。

来年度はこれまで実施されていた気仙支部里親定例会や里親ボランティア活動などの復活を目指し、活気ある里親支援活動にしていけるよう努力していきたいと思えます。

16. 自治会及び部活動

(1) 自治会

今年度の自治会活動は、自治総会を中心に行いました。年度はじめの総会ではけんりノートの読み合わせはコロナの状況もふまえて割愛し、各ホームで取り組みました。自治会年間目標は手洗い、うがい、マスク着用を徹底しよう。人を傷つけない言葉遣いや行動をする。物を大切にす。自分の事は自分でする。誰に対しても感謝の気持ちを忘れないとなりました。定例総会では、善行賞が贈られ、1年皆勤の子たちが例年よりも多かったです。リーダー会議では、高校生を集めて話し合いを行いました。園内行事はコロナの状況もあり、全体旅行が4つのグループによる小旅行となったことや、歳末演芸会が園内でコロナ陽性者が発生したことにより中止になったことで例年通りに行事を行うことが出来なかったこともあり、実際の活動は少なかった1年でした。

(2) 野球部

今年度もコロナウイルスの影響で大会が全て中止となり、野球部としての活動は一つも出来ませんでした。来年度こそは部の活動の実施につなげていければいいなと思えます。

(3) 卓球部

今年度の卓球部の活動は新型コロナウイルスの関係で活動は出来ませんでした。

(4) ソフトボール部

今年度のソフトボール部の活動は、昨年度同様に新型コロナウイルスの関係で活動は出来ませんでした。

17. 地域交流活動

今年度は上・下富岡・長谷堂、下権現堂の行事等に招待や支援を受けてきましたが、新型コロナウイルスの関係で例年通りの行事に参加する事がほとんど出来ませんでした。その中わざわざ学園まで足を運んでいただいた方々も多く、職員児童一同本当に感謝しております。

各学校行事は各PTA行事、各部活動の会合、父母会への参加及び協力、野球スポーツ少年団への協力等できることは引き続き行っています。小学校との懇談会は新型コロナウイルスの為、例年通り行う事が出来ませんでした。面談と施設見学だけで規模を縮小して実施しました。

来年度もご支援いただいた方々への感謝を子ども達と共有しながら、地域活動には積極的に参加し、地域の方々にも数多く足を運んでいただける施設となり、地域の中にある大洋学園として子育てが出来ればと考えておりますので、お力添えをお願いいたします。

18. 保健衛生

(1) 通院状況

学校検診を元に小児科、眼科、耳鼻科、歯科通院を行いました。子どもの健康状態に応じて皮膚科、整形外科、精神科などにも通院しました。今年度は新型コロナウイルスへの罹患が、児童、職員共にあり、その都度緊急体制をとり、医療機関や保健所に相談しながら感染拡大につとめました。

小児科	歯科	皮膚科	精神科	内科	外科
200	72	33	29	11	1
眼科	耳鼻科	整形外科	婦人科	その他	合計
22	7	21	7	19	422

(2) 健康診断と予防接種

健康診断については、園児は夏休み、冬休みを利用して年2回嘱託医で実施しました。職員の1回目は嘱託医で行い、2回目は予防医学協会で行いました。予防接種については、インフルエンザは園児全員、職員は嘱託医とかかりつけ医で希望者が実施しました。その他にも、定期接種のワクチンは随時、B型肝炎、おたふくかぜ等の任意接種はかかりつけ医の指導のもと、必要に応じて実施しました。コロナウイルスワクチンについても職員、接種年齢に達した児童において、接種しました。身長、体重測定は、2か月に1度実施しました。

(3) その他

園内美化作業については、職員と子どもとの一緒活動にて密にならないよう注意しながら実施しました。園内の消毒作業は、本園は13時より、分園はホームごとに決めた時間に、毎日実施しました。今年度も、衛生管理要領を元に、服薬管理、衛生管理、バイタルチェックを行いました。また、コロナウイルス感染地域へ出入り等の状況に応じて、抗原検査やPCR検査の実施も取り入れました。

19. 被服の支給

高校生2万4千円、中学生2万円の個人予算の中で衣類を自己選択して購入しました。予算の使用方法については、それぞれ担当職員と相談しながら、必要に応じた衣類の購入や、予算の範囲内で好みの物を選択するなど、経済観念を養えるよう支援してきました。また、幼児や小学生については、必要なものを担当職員と一緒に買い物し、自己表現が出来るようにしました。

リネン室の整理作業や、毛布のクリーニング、児童用寝具・来客用寝具の整理と、種類毎の梱包と収

納作業を行いました。今年度も多くの寄付をいただき、衣類や寝具、タオル等、子ども達のために活用させていただきました。

在庫の確認をしながら、これからも必要に応じて被服の支給をしていきます。

20. 給食

学園の食事は、幼児期から高校生まで発達段階に応じて食体験を積み重ねていくうえでとても大事になり、毎日の献立作成にあたっては発育、発達状況に応じ必要な栄養をみたくものでなければなりません。子どもの食に関する嗜好や体験が広がり深まるように、行事食も積極的に取り入れ食事からも季節を感じられるように献立の組み合わせ等も工夫してきました。児童養護施設で暮らす子どもの多くは家庭での適切な食生活が営まれることなく入所してくることが多いため、ユニット化により家庭的で子どもと一緒に食材の買い物から調理、片付けまでの一連の流れを経験する機会があり、自分たちの食事が出来上がるまでの過程を自然と体験することができるようになっています。食体験の機会を増やし、出来ることを増やしていきたいと思い新しい取り組みとしてチャレンジメニューを献立に取り入れ子ども達と一緒にご飯作りやおやつ作りをしました。また、各ホームへ入ることにより子ども達の要望を把握し、献立に多く取り入れながら、安心して子ども達が食事出来るように実施してきました。

21. 苦情解決

今年度苦情受付箱「みんなの声」を通じた苦情の申し出は3件、要望は4件でした。苦情は子ども間同士のトラブルによるものが多かったです。当事者同士での話し合いが難しいため、大人が間に入って話しを聞き解決していくプロセスをとりました。要望については、新年度ホームの編成についてや、水鉄砲をみんなでやりたいなどの希望が出されています。例年に比べて投函数が少ない1年でした。

22. 防災状況

児童養護施設の防災訓練（消防訓練）は毎月実施が義務付けられているため、様々な想定で訓練を実施してきた。職員が主として活動する昼間編成での訓練を6回実施。職員が少ない時間帯で園児が主となり活動する夜間編成での訓練を6回実施した。早朝訓練1回、地震を想定した避難訓練も含まれている。コロナ禍の影響があり、職員招集訓練においては連絡網の確認のみ行い、実際の招集は見送った。地域小規模児童養護施設、分園型小規模グループケアでは昼間訓練、夜間訓練をそれぞれ実施。その地域に合わせ、火災や地震、河川氾濫を想定し訓練を実施した。また、館内の避難誘導灯の交換工事を行い環境の整備にも努めた。

その他には緊急時の対応として各学校と大洋学園で統一を図ることで、園児が混乱なく安全に避難出来るように努めた。高校生は携帯電話を所持しており、大洋学園の固定電話や携帯電話、衛星電話の番号を登録することで緊急時の連絡先の統一を図った。また、月に一度安全点検を行うことで施設内の危険箇所や修繕箇所の把握に努めた。問題箇所が見つければ都度対応し、安全確保に努めてきた。

23. まとめ

新型コロナウイルス感染症の流行も3年目となり、前年に引き続き予防対策に追われる日々でした。過去2年以上に感染力の強いウイルスが横行し、感染者数がうなぎ上りに増加していく中、当然ながら多くの取組みが中止を余儀なくされました。

大洋学園内に於いては、法人のルールに則り、感染予防を徹底実施しておりましたが、学校は概ね通常に戻っておりましたので、学校の部活動等經由にて園児の感染が10月～11月にかけて発生し、特に双葉ホームに於いてはクラスターが発生しましたが、職員の賢明な対応により他のグルー

ブへの感染拡大はありませんでした。その後も1人・2人と少人数の発生がポツポツとありましたが、12月以降の園児への感染はありませんでした。

その様な状況の中、昨年同様に感染予防を考慮した縁日やホーム単位の行事を多く実施し、子供たちに楽しみを提供することができました。特に、12月から1月にかけて4グループに分かれて実施した全体旅行は、高校3年生が計画し、中高生2グループは宮城県、小学生2グループは秋田県にて実施しました。久しぶりの宿泊を伴う行事に園児たちも満足してくれた様でしたし、その後体調不良等の児童もありませんでした。

運営面では、前年度に就職で卒園した児童と引き取りとなった児童合わせて8名おり、年度当初は30人でスタート致しましたが、5月に2人、7月に2人、11月に1人、最終的には35名の受け入れ児童となりました。また、職員については年度途中採用が2名おりましたが、3月に3名の退職者が発生し、結果的には減員となっております。

事業に於いては、園舎の老朽化に伴う補修として、ホールの屋根・照明のLED化（ホール）等を実施しましたし、大規模なところでは、園舎裏の斜面擁壁設置工事を開始致しました。工期は3月で完了予定でしたが、まとまった雨が降ったことで土砂が流出し、既存の擁壁が崩落する事態となり、次年度（5月頃）まで工期が伸びている状況です。

最後に、コロナ感染症の影響をこれまで以上に受けつつも、その対応をしっかりと行うことで、子供たちの活動範囲を広げられた1年であったと思います。感染者が出つつも、大きく広がることなく沈静化できたことは子供たちと職員がしっかりと感染予防に尽力してきた結果であると感謝申し上げます。